

○ 国家公務員共済組合法施行令（昭和三十三年政令第二百七号）（第二条関係）

（傍線部分は改正部分）

改正案	現行
<p>（職員）</p> <p>第二条 法第二条第一項第一号に規定する常時勤務に服することを要しない国家公務員で政令で定めるものは、次に掲げる者とする。</p> <p>一 国家公務員法（昭和二十二年法律第二百十号）第七十九条又は第八十二条の規定による休職又は停職の処分を受けた者</p> <p>二 国家公務員法第八十条の六第五項又は特定独立行政法人の労働関係に関する法律（昭和二十三年法律第二百五十七号）第七条第五項の規定により休職者とされた者</p> <p>三 国際機関等に派遣される一般職の国家公務員の処遇等に関する法律（昭和四十五年法律第一百七号）第二条第一項の規定により派遣された者</p> <p>四 国家公務員の育児休業等に関する法律（平成三年法律第九号）第三条第一項の規定により育児休業をしている者又は同法第十三条第一項に規定する育児短時間勤務職員（同法第二十二條の規定による勤務をしている者を含む。）</p> <p>四の二 国と民間企業との間の人事交流に関する法律（平成十一年法律第二百二十四号）第八条第二項に規定する交流派遣職員</p> <p>四の三 法科大学院への裁判官及び検察官その他の一般職の国家公務員の派遣に関する法律（平成十五年法律第四十号）第十一条第一項の規定により派遣された者（地方の組合の組合員となつた者を除く。）</p>	<p>（職員）</p> <p>第二条 法第二条第一項第一号に規定する常時勤務に服することを要しない国家公務員で政令で定めるものは、次に掲げる者とする。</p> <p>一 国家公務員法（昭和二十二年法律第二百十号）第七十九条又は第八十二条の規定による休職又は停職の処分を受けた者</p> <p>二 国家公務員法第八十条の六第五項又は特定独立行政法人の労働関係に関する法律（昭和二十三年法律第二百五十七号）第七条第五項の規定により休職者とされた者</p> <p>三 国際機関等に派遣される一般職の国家公務員の処遇等に関する法律（昭和四十五年法律第一百七号）第二条第一項の規定により派遣された者</p> <p>四 国家公務員の育児休業等に関する法律（平成三年法律第九号）第三条第一項の規定により育児休業をしている者又は同法第十三条第一項に規定する育児短時間勤務職員（同法第二十二條の規定による勤務をしている者を含む。）</p> <p>四の二 国と民間企業との間の人事交流に関する法律（平成十一年法律第二百二十四号）第八条第二項に規定する交流派遣職員</p> <p>四の三 法科大学院への裁判官及び検察官その他の一般職の国家公務員の派遣に関する法律（平成十五年法律第四十号）第十一条第一項の規定により派遣された者（地方の組合の組合員となつた者を除く。）</p>

四の四 判事補及び検事の弁護士職務経験に関する法律（平成十六年法律第二百一十一号）第二条第七項に規定する弁護士職務従事職員

四の五 国家公務員の自己啓発等休業に関する法律（平成十九年法律第四十五号）第二条第五項に規定する自己啓発等休業をしている者

四の六 国家公務員の配偶者同行休業に関する法律（平成二十五年法律第七十八号）第二条第四項に規定する配偶者同行休業をしている者

五 国家公務員法第二条第三項第十号、第十三号、第十四号又は第十六号に掲げる者で第一号から第四号の二まで、第四号の五又は前号に掲げる者に準ずるもの

六 国の一般会計又は特別会計の歳出予算の常勤職員給与の目から俸給が支給される者

七 前各号に掲げる者以外の常時勤務に服することを要しない国家公務員のうち、財務大臣の定めるところにより、常勤職員について定められている勤務時間以上勤務した日（法令の規定により、勤務を要しないこととされ、又は休暇を与えられた日を含む。）が引き続き十二月を超えるに至つたもので、その超えるに至つた日以後引き続き当該勤務時間により勤務することを要することとされているもの

2
法第二条第一項第一号に規定する臨時に使用される者その他の政令で定める者は、次に掲げる者とする。

一 国家公務員法第六十条第一項の規定により臨時に任用された者

二 国家公務員の育児休業等に関する法律第七条第一項又は国家公務員の配偶者同行休業に関する法律第七条第一項の規定により臨時に任用された者

三 国家公務員法第二条第三項第十号、第十三号、第十四号又は第十六号に掲げる者で第一号又は前号に掲げ

四の四 判事補及び検事の弁護士職務経験に関する法律（平成十六年法律第二百一十一号）第二条第七項に規定する弁護士職務従事職員

四の五 国家公務員の自己啓発等休業に関する法律（平成十九年法律第四十五号）第二条第五項に規定する自己啓発等休業をしている者

（新設）

五 国家公務員法第二条第三項第十号、第十三号、第十四号又は第十六号に掲げる者で第一号から第四号の二まで又は前号に掲げる者に準ずるもの

六 国の一般会計又は特別会計の歳出予算の常勤職員給与の目から俸給が支給される者

七 前各号に掲げる者以外の常時勤務に服することを要しない国家公務員のうち、財務大臣の定めるところにより、常勤職員について定められている勤務時間以上勤務した日（法令の規定により、勤務を要しないこととされ、又は休暇を与えられた日を含む。）が引き続き十二月を超えるに至つたもので、その超えるに至つた日以後引き続き当該勤務時間により勤務することを要することとされているもの

2
法第二条第一項第一号に規定する臨時に使用される者その他の政令で定める者は、次に掲げる者とする。

一 国家公務員法第六十条第一項の規定により臨時に任用された者

二 国家公務員の育児休業等に関する法律第七条第一項の規定により臨時に任用された者

三 国家公務員法第二条第三項第十号、第十三号、第十四号又は第十六号に掲げる者で第一号又は前号に掲げ

る者に準ずるもの
四 国及び特定独立行政法人から給与を受けない者

第四十四条の五 法第二百二十四条の三に規定する常時勤務
することを要しない者で政令で定めるものは、第二条第
一項第一号から第四号まで、第四号の五若しくは第四号
の六に掲げる者又は教育公務員特例法（昭和二十四年法
律第一号）第二十六条第一項の規定により大学院修学休
業をしている者に準ずる者として組合の運営規則で定め
る者とする。

2
4
（略）

る者に準ずるもの
四 国及び特定独立行政法人から給与を受けない者

第四十四条の五 法第二百二十四条の三に規定する常時勤務
することを要しない者で政令で定めるものは、第二条第
一項第一号から第四号まで若しくは第四号の五に掲げる
者又は教育公務員特例法（昭和二十四年法律第一号）第
二十六条第一項の規定により大学院修学休業をしている
者に準ずる者として組合の運営規則で定める者とする。

2
4
（略）

改正案	現行
<p>（国の職員の取扱い）</p> <p>第四十二条 常時勤務に服することを要する国家公務員以外の国家公務員で法第四百四十二条第一項の規定により常時勤務に服することを要する国家公務員に含まれるものは、次に掲げる者とする。</p> <p>一 国家公務員法（昭和二十二年法律第二百十号）第七十九条又は第八十二条の規定による休職又は停職の処分を受けた者</p> <p>二 国際機関等に派遣される一般職の国家公務員の処遇等に関する法律（昭和四十五年法律第一百七号）第二条第一項の規定により派遣された者</p> <p>三 国家公務員の育児休業等に関する法律（平成三年法律第九号）第三条第一項の規定により育児休業をしている者又は同法第十三条第一項に規定する育児短時間勤務職員（同法第二十二條の規定による勤務をしている者を含む。）</p> <p>四 法科大学院への裁判官及び検察官その他の一般職の国家公務員の派遣に関する法律（平成十五年法律第四十号）第十一条第一項の規定により派遣された者（国の組合の組合員となつた者、公立学校共済組合の組合員となつた者及び団体職員となつた者を除く。）</p> <p>五 国家公務員の自己啓発等休業に関する法律（平成十九年法律第四十五号）第二条第五項に規定する自己啓発等休業をしている者</p> <p>六 国家公務員の配偶者同行休業に関する法律（平成二十五年法律第七十八号）第二条第四項に規定する配偶</p>	<p>（国の職員の取扱い）</p> <p>第四十二条 常時勤務に服することを要する国家公務員以外の国家公務員で法第四百四十二条第一項の規定により常時勤務に服することを要する国家公務員に含まれるものは、次に掲げる者とする。</p> <p>一 国家公務員法（昭和二十二年法律第二百十号）第七十九条又は第八十二条の規定による休職又は停職の処分を受けた者</p> <p>二 国際機関等に派遣される一般職の国家公務員の処遇等に関する法律（昭和四十五年法律第一百七号）第二条第一項の規定により派遣された者</p> <p>三 国家公務員の育児休業等に関する法律（平成三年法律第九号）第三条第一項の規定により育児休業をしている者又は同法第十三条第一項に規定する育児短時間勤務職員（同法第二十二條の規定による勤務をしている者を含む。）</p> <p>四 法科大学院への裁判官及び検察官その他の一般職の国家公務員の派遣に関する法律（平成十五年法律第四十号）第十一条第一項の規定により派遣された者（国の組合の組合員となつた者、公立学校共済組合の組合員となつた者及び団体職員となつた者を除く。）</p> <p>五 国家公務員の自己啓発等休業に関する法律（平成十九年法律第四十五号）第二条第五項に規定する自己啓発等休業をしている者</p> <p>（新設）</p>

者同行休業をしている者

七| 与の国一般会計又は特別会計の歳出予算の常勤職員給
与の目から俸給が支給される者

八| 前号に掲げる者以外の常時勤務に服することを要し
ない国家公務員のうち、総務大臣の定めるところによ
り、常時勤務に服することを要する国家公務員につい
て定められている勤務時間以上勤務した日（法令の規
定により、勤務を要しないこととされ、又は休暇を与
えられた日を含む。）が引き続いて十二月を超えるに
至つた者で、その超えるに至つた日以後引き続き当該
勤務時間により勤務することを要することとされてい
るもの

六| 与の国一般会計又は特別会計の歳出予算の常勤職員給
与の目から俸給が支給される者

七| 前号に掲げる者以外の常時勤務に服することを要し
ない国家公務員のうち、総務大臣の定めるところによ
り、常時勤務に服することを要する国家公務員につい
て定められている勤務時間以上勤務した日（法令の規
定により、勤務を要しないこととされ、又は休暇を与
えられた日を含む。）が引き続いて十二月を超えるに
至つた者で、その超えるに至つた日以後引き続き当該
勤務時間により勤務することを要することとされてい
るもの

○ 児童手当法施行令（昭和四十六年政令第二百八十一号）（第四条関係）

（傍線部分は改正部分）

改正案	現行
<p>2 （略）</p> <p>（公務員の範囲） 第四条 法第十七条第一項の表の第一号の上欄に規定する政令で定める国家公務員は、国家公務員共済組合法施行令（昭和三十二年政令第二百七号）<u>第二条第一項第一号、第三号、第四号、第四号の五及び第四号の六に掲げる者、同項第五号に掲げる者（同項第二号又は第四号の二に掲げる者に準ずる者を除く。）並びに同項第六号及び第七号に掲げる者とする。</u></p>	<p>2 （略）</p> <p>（公務員の範囲） 第四条 法第十七条第一項の表の第一号の上欄に規定する政令で定める国家公務員は、国家公務員共済組合法施行令（昭和三十二年政令第二百七号）<u>第二条第一項第一号、第三号、第四号及び第四号の五に掲げる者、同項第五号に掲げる者（同項第二号又は第四号の二に掲げる者に準ずる者を除く。）並びに同項第六号及び第七号に掲げる者とする。</u></p>